

2007 年度

科目名 死生学	対象学科・学年 薬学部薬学2回生	担当者 荻野 勝行
授業テーマ 「死」の認識と「生」の自覚		
授業の概要と目標 本学のカリキュラムは、通教育科目カリキュラムと専門教育科目カリキュラムからなる。それぞれのカリキュラムには、必修科目と選択科目がある。他の学部と比較して、薬学部の共通教育カリキュラムは、かなり異相である。その必修科目に関しても明確な違いがある。本講義「死生学」もその1つである。なぜ、「死生学」が必修なのか、そして「死生学」を学ぶことが、今後の自己の考え方にどのように反映させていくのかということをテーマとして、その解答を見出すことが本講義の目標である。		
評価方法 100点で評価を行う。配分は、出席点30%（ただし、規定に基づく回数以上の欠席に関しては、評価を行わない）小テスト3回（各10%、合計30%、なお欠席の場合の評価は原則0%）最終テスト40%の合計である。		
テキスト 原則として、用いない。 必要性を感じれば、講義中に指示する。	著者	出版社
参考 『経験論の宗教学』 （1年次の宗教学のテキスト）	著者 荻野勝行 貫名 譲	出版社 杉山書店
授業スケジュール・内容 ① 講義の進め方、評価の仕方及び講義に臨む姿勢 ② 人間の死という現象の認識のメカニズム ③ ②について解釈実践（interpretative practice）の存在と機能 ④ 死という現象に関しての人間の意識 ⑤ 第1回小テストの実施 ⑥ 第1回小テストの返却と解説。死と自己との間隔 ⑦ 死生観の主な4つの類型Ⅰ ⑧ 死生観の主な4つの類型Ⅱ ⑨ 第2回小テストの実施 ⑩ 第2回小テストの返却と解説。死に関する意識の変容Ⅰ ⑪ 死に関する意識の変容Ⅱ ⑫ 第3回小テストの実施 ⑬ 第3回小テストの返却と解説。最終テストについての留意事項 ⑭ 最終テストの実施 ⑮ 最終テストの返却と解説		